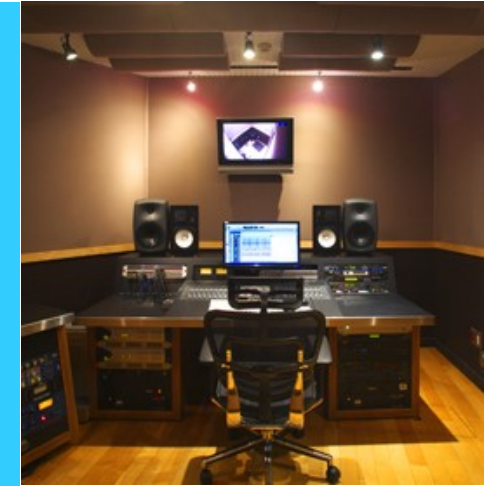




Hospitality Value Provider

表舞台を輝かせる真のおもてなしを極めて



2018年9月期決算説明会

2018年11月29日 兜町平和ビル
株式会社CSSホールディングス

東証 JASDAQ
証券コード 2304

<https://www.css-holdings.jp/>

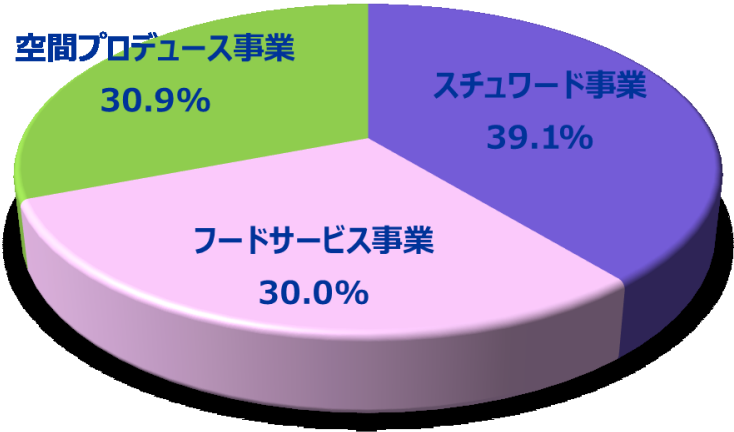
2018年9月期決算

【会社名】	株式会社CSSホールディングス
【本社所在地】	東京都中央区日本橋小伝馬町10番 1 号
【設立】	1984年（昭和59年） 12月
【資本金】	393百万円
【発行済株式総数】	5,285,600株
【決算期】	9月
【代表者】	代表取締役社長 林田 喜一郎
【連結従業員数】	5,730名（うち、パート・アルバイト 5,147名）（2018年9月30日現在）

(単位：百万円)	2017年9月期	2018年9月期	差異
売上高	16,895	17,326	431
営業利益	262	253	▲ 9
経常利益	291	270	▲ 21
親会社に帰属する当期純利益	152	158	▲ 6
1株あたり当期純利益(円)	30.22	31.40	1.18

(単位：百万円)	2018年9月期		差異
	計画値	当期	
売上高	17,477	17,326	▲ 151
営業利益	283	253	▲ 30
経常利益	300	270	▲ 30
親会社に帰属する当期純利益	174	158	▲ 16
1株あたり当期純利益(円)	34.69	31.40	▲ 3.29

【セグメント別売上構成比】



 Point

スチュワード事業、空間プロデュース事業が大きく増収に貢献するも、フードサービス事業は減収・減益、スチュワード事業も人件費負担増から減益。
有価証券売却益により、特別利益が増加し、純利益については前期以上を計上。

連結業績(B/S)

(単位：百万円)	前期末 2017年9月末日現在	当期末 2018年9月末日現在	差 異
資産合計	6,675	7,031	356
流動資産	3,711	3,847	136
固定資産	2,964	3,183	219
負債合計	3,959	4,202	242
流動負債	2,749	3,080	331
固定負債	1,210	1,121	▲ 88
純資産合計	2,715	2,829	113
株主資本	2,590	2,697	106
評価・換算差額等	124	131	7
負債・純資産合計	6,675	7,031	356
自己資本比率	40.7%	40.2%	▲0.5P

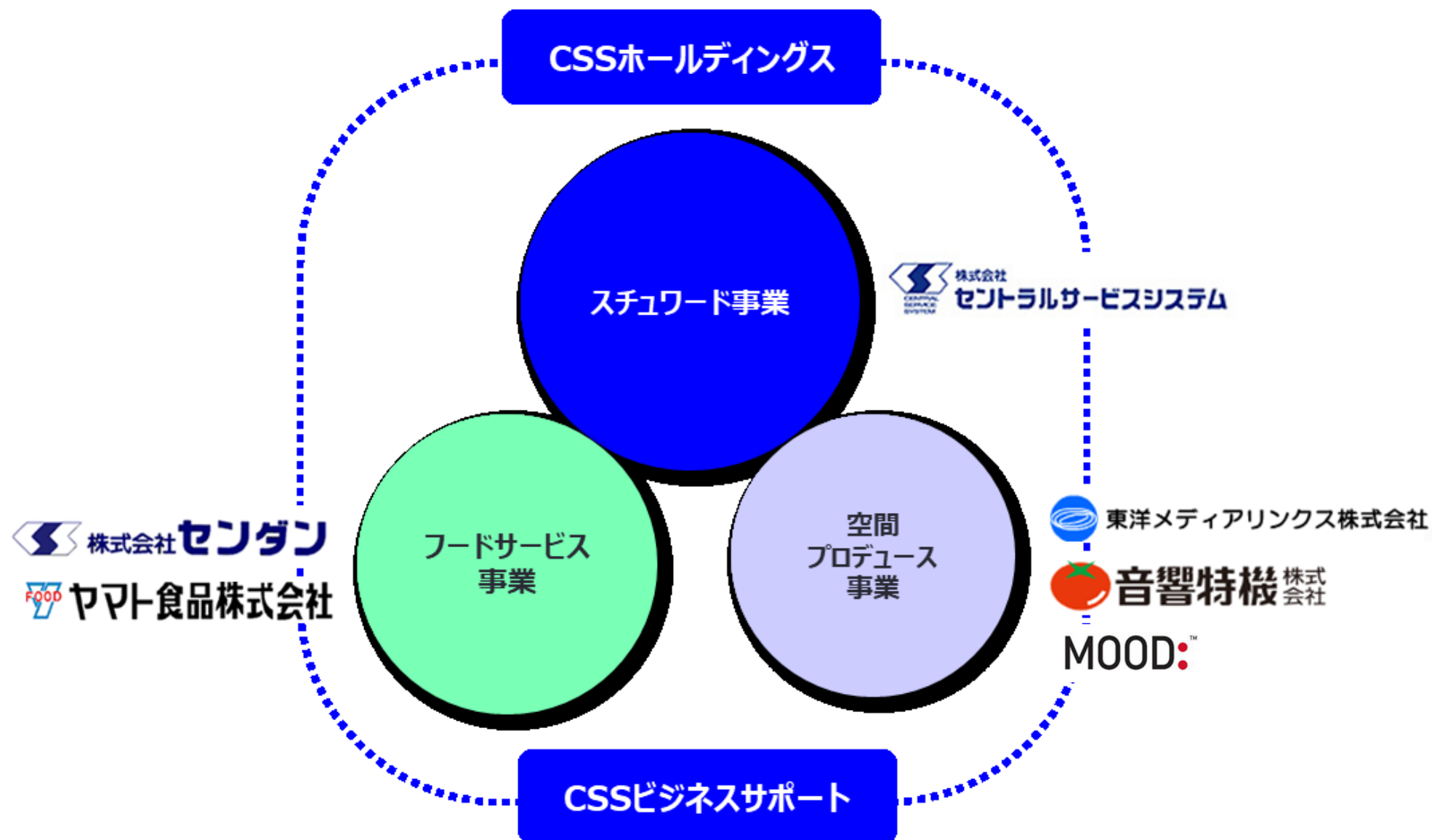


Point

流動資産差異は売上増に伴う売掛金増加等による。固定資産差異は本社空調工事等に伴うもの、流動負債差異は買掛金の増加等による。
純資産も増加したことで、自己資本比率は、40%台を維持。



(単位：百万円)	2017年9月期 累計期間	2018年9月期 累計期間	差 異
営業キャッシュフロー	210	345	134
投資キャッシュフロー	▲ 126	▲ 200	▲ 73
財務キャッシュフロー	▲ 294	▲ 162	131
現金及び現金同等物の増減額	▲ 210	▲ 17	192
現金及び現金同等物の期首残高	1,298	1,088	－
現金及び現金同等物の期末残高	1,088	1,070	▲ 17

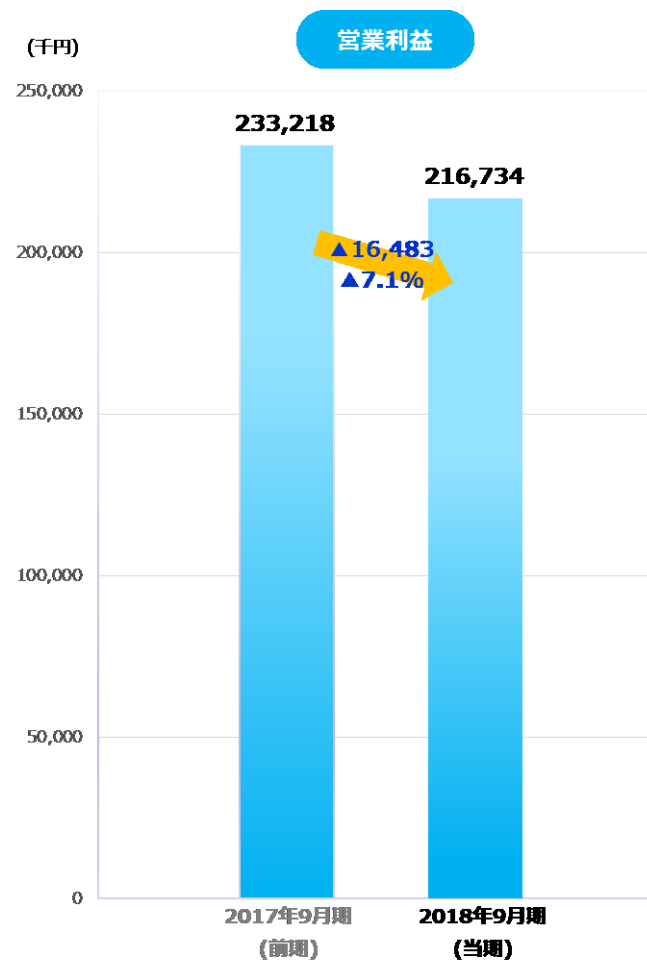
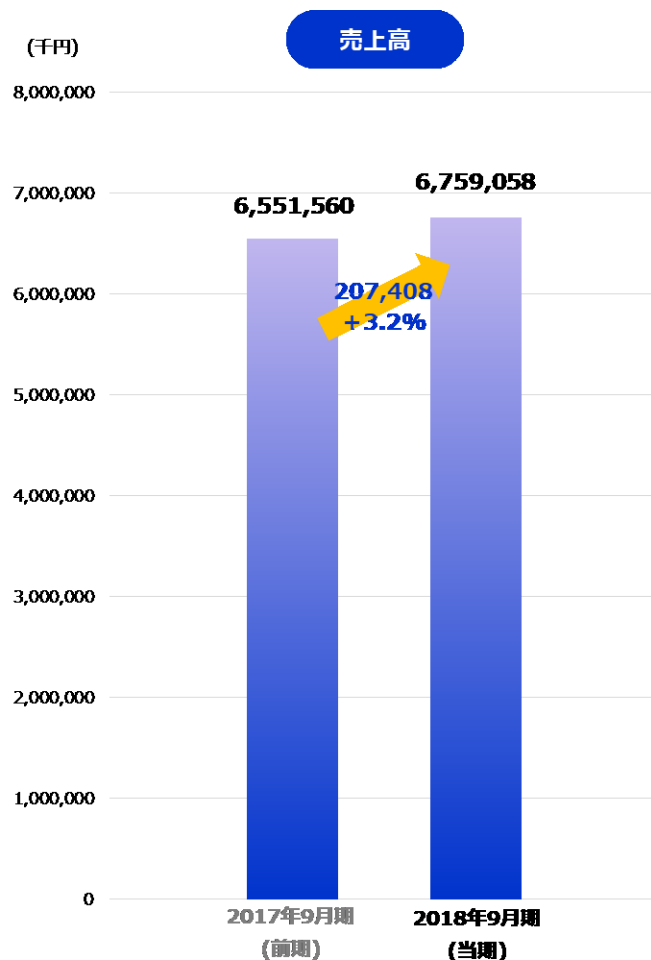


【売上高】

(単位：千円)	2017年9月期	2018年9月期	増減額	増減率
スチュワード事業	6,551,650	6,759,058	207,408	3.2%
フードサービス事業	5,287,825	5,196,536	▲ 91,288	▲ 1.7%
空間プロデュース事業	5,040,633	5,341,764	301,131	6.0%

【セグメント利益】

(単位：千円)	2017年9月期	2018年9月期	増減額	増減率
スチュワード事業	233,218	216,734	▲ 16,483	▲ 7.1%
フードサービス事業	24,163	▲ 38,509	▲ 62,672	—
空間プロデュース事業	18,513	127,986	109,472	591.3%



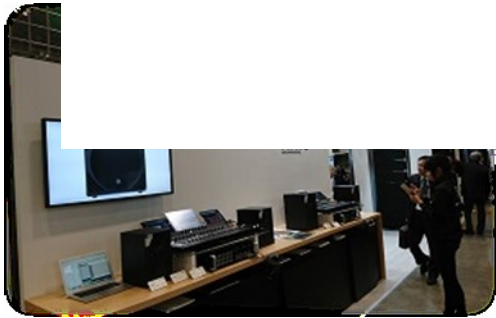
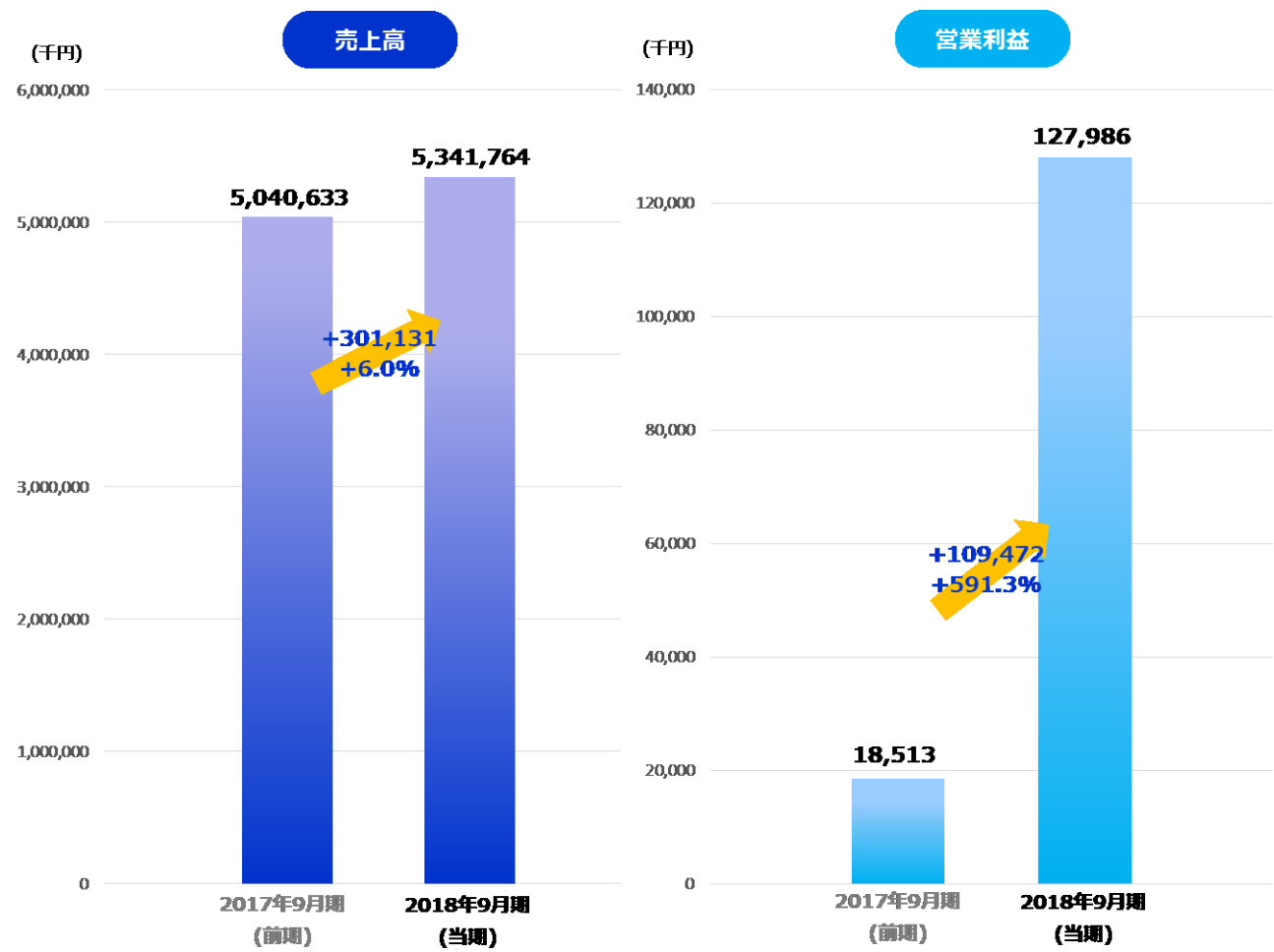
Point

主要顧客であるホテルの高稼働、新たに受注した大型案件の売上が寄与、新規案件は16件を獲得。時給の上昇、社会保険料の負担増により人件費が拡大、営業利益については前年を下回る。



受託給食、朝食レストランの受託が増加するも、食材販売の失注増により減収
 上期の原価の高止まり、売上減に対する労務費のコントロールが追従せず固定費化、
 採用費用の増加等が収支を圧迫、営業損失の計上となった。





 Point

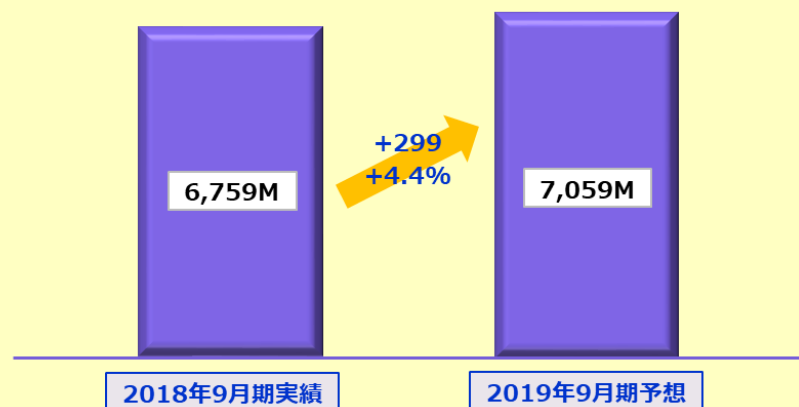
新しい顧客への販売増加、映像ソリューションの納品増等各部門で堅調に売上を伸張。海外ブランドの拡大により、海外製品の売上比率も上がったことから粗利が増加、営業利益は前年を大きく上回る事となった。

2019年9月期予想及び 今後の取組み

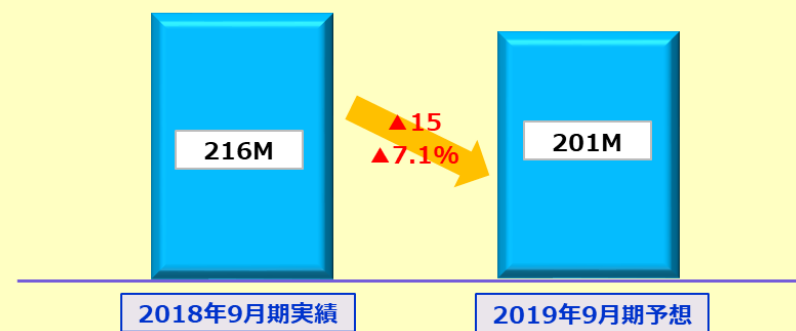
2019年9月期についても、中核事業として売上・利益の両面でグループを牽引

- 前期期中での受注案件が通年で寄与することで、売上の基礎を固め、さらに新規受注により売上を拡大
- 人件費増により、営業利益率3.0%を見込む
- 売上高、約70億円、営業利益、約2億円を予想

売上高



営業利益



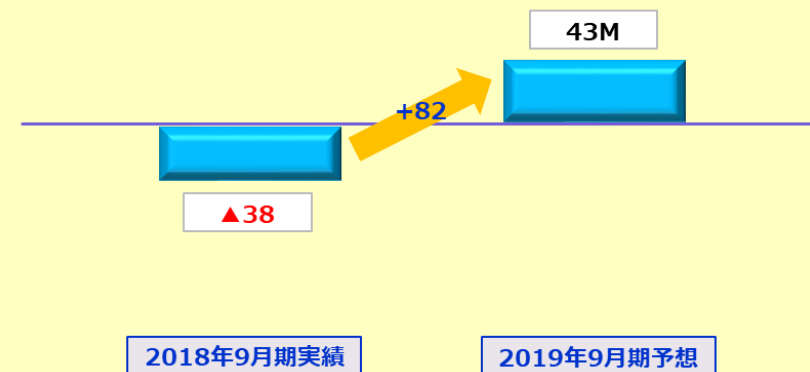
売上確保を第一義として固定費をカバー、黒字を回復

- 失注を抑え、売上を確保することに加え、新規案件の受託により売上を拡大
- 原価率を安定させることで粗利を拡大し、固定費をカバー
- 売上高、約54億円、営業損失から営業利益、約4千万円までの回復を予想

売上高



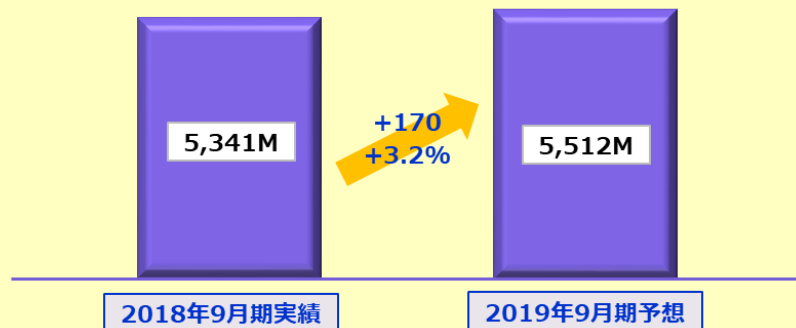
営業利益



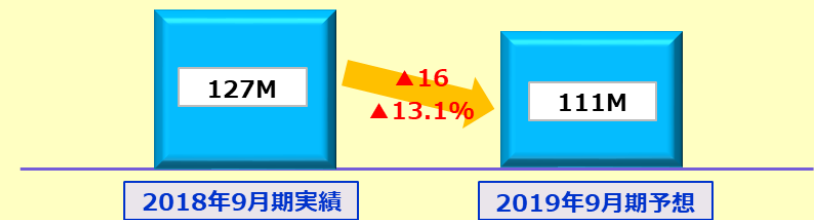
前期を上回る売上を達成し、営業利益率2.0%を確保

- 顧客層の拡大、新商材、ブランド認知度の向上により前期以上の売上を確保
- 一部粗利率の低下が予想されることから、営業利益については縮小
- 売上高、55億円、営業利益は1.1億円を予想

売上高



営業利益



2019年9月期予想

(単位：百万円)	2018年9月期実績	2019年9月期予想	差異	備考
売上高	17,326	18,009	682	
営業費用	17,072	17,742	669	
営業利益	253	266	13	
経常利益	270	231	▲ 38	

売上高	2018年9月期実績	2019年9月期予想	差異
スチュワード事業	6,759	7,059	299
フードサービス事業	5,196	5,404	208
空間プロデュース事業	5,341	5,512	170

営業利益	2018年9月期実績	2019年9月期予想	差異
スチュワード事業	216	201	▲ 15
フードサービス事業	▲ 38	43	82
空間プロデュース事業	127	111	▲ 16

 Point

各セグメントは前期以上の増収を目指す。
費用については、人件費増を原価の圧縮、
その他経費の削減でカバーすることで利益
を確保。
営業外費用において、ファイナンスに関わる
費用増を見込むことから、経常利益は前期
を下回ると予想する。

本資料についてのご注意

本資料は参考資料であり、正確な決算数値等は当社決算短信および有価証券報告書をご参照願います。また、本資料に記載の業績に関する見通しや計画等には、不確定要因を含んでおります。実際の業績などは、当社の事業を取り巻く経済情勢等の様々な要素により異なる可能性があることをご承知おき願います。

IRに関するお問い合わせ

株式会社CSSホールディングス グループ経営管理室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail info@css-ltd.co.jp